

中南米の踊り

各踊りの特徴等については、特集2「簡潔・明解! 『舞曲』保存版ガイド」をお読みください。



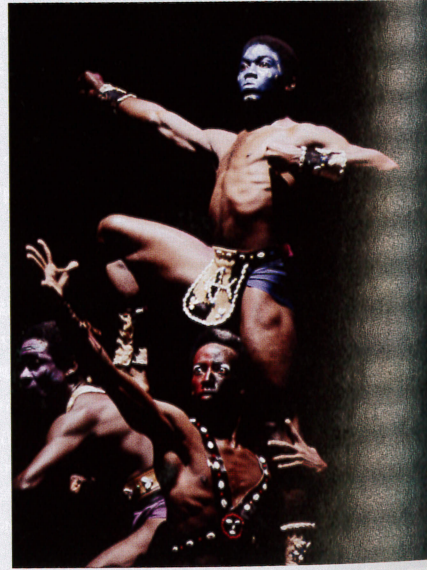
サンバ リオのカーニバル (ブラジル リオ・デ・ジャネイロ) © 芳賀日向/芳賀ライブラリー



ハバネラ
キューバの伝統的な踊りのひとつ
「戦士の踊り」
キューバ国立民族舞踊団
写真提供: 民主音楽協会

流れている音楽は、
何拍子?
テンポは?
リズムは?

タンゴ
Andres & Mana
写真提供:
アルゼンチンタンゴ・ダンス協会



ドイツ・オーストリア

新ウィーン楽派

無調、特に12音技法による作品を残した「数学的な」作曲家たち。シェーンベルクと弟子のベルク、ウェーベルン。



講習会



ピエール・ブーレーズ
(Pierre Boulez) 1925年~
世界的な指揮者。フランスの楽壇の中では、もっともドイツ20世紀音楽の影響を受け、演奏至難な曲を発表。

指揮のライバル



オリヴィエ・メシアン
(Olivier Messiaen) 1908~1992年
フランスの戦後を代表する作曲家。自分の音楽語法を明文化する。鳥類学者でもあり、神秘主義のキリスト教信者でもある。

パリ国立音楽院伴奏科の継承



相反する作風



師弟

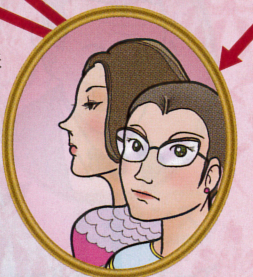
アンリエット・ピュイグ=ロジェ
(Henriette Puig-Roget) 1910~1992年
演奏、作曲、評論、教育にまたがる「完全なる音楽家」。生涯の後半4分の1は、日本で教鞭をとる。

レナード・バーンスタイン
(Leonard Bernstein) 1918~1990年
20世紀後半の指揮界をカラヤンと二分した存在。作曲家としては《ウエスト・サイド物語》が特に有名。



大衆性

ブーランジェ姉妹
ナディア/リリ
(Nadia Boulanger) 1887~1979年
(Lili Boulanger) 1893~1918年
姉ナディア、妹リリ。妹はローマ大賞を受賞するが早逝、姉は20世紀最大の教育者となり、外国人も指導する。



ジャン・カルロ・メノッティ
(Gian Carlo Menotti) 1911~2007年
イタリアから帰化したオペラ作曲家。イタリアの豊かな旋律性と、現代的なセンスを持つ。

大衆性



大衆性

アーロン・コプランド
(Aaron Copland) 1900~1990年
明快な曲想を売り物とする。はじめてのアメリカの個性を持った作曲家。

大衆性



アメリカ

ジョージ・ガーシュウィン
(George Gershwin) 1898~1937年
20世紀前半のジャズの作曲家だが、即興ではなく記譜している。ポピュラーな歌曲はミンストレル・ショー(白人による黒人風演芸)用として。

20世紀前半のジャズの作曲家だが、即興ではなく記譜している。ポピュラーな歌曲はミンストレル・ショー(白人による黒人風演芸)用として。

イギリス



ベンジャミン・ブリテン
(Benjamin Britten) 1913~1976年
バロック時代に花開いたイギリス独自の音楽を、20世紀に蘇らせた大作曲家。同性愛者を公認。

オペラのライバル

師弟

マイケル・ティペット
(Michael Tippett) 1905~1998年
90歳を越してもなお現役で、全ての分野に作品を残す。この人も……



エドワード・エルガー
(Edward Elgar) 1857~1934年
大英帝国ご用達の大規模な編成を得意とする。しかし初期は売れず、妻の実家からの送金に頼っていた。

継承



グスターヴ・ホルスト
(Gustav Holst) 1874~1934年
20世紀初頭のイギリス音楽復興を担った作曲家。自国の素材を用いる。

「舞曲」ガイド

Part2 アメリカ編

舞曲 通し番号 (丸付き数字) 一覧

※舞曲の解説等は、以下の番号順に掲載されています。

Part 1: 「ムジカノーヴァ」2008年11月号 特集2 「Part 1 ヨーロッパ編」に掲載。

●ア行

- アルマンド Part1 ①
- エコセーズ Part1 ⑩

●カ行

- ガヴォット Part1 ④
- カドリーユ Part1 ⑳
- ガリアルド Part1 ㉒
- ギャロップ Part1 ⑭
- クイックステップ Part2 ⑧
- クーラント Part1 ②
- 行進曲 Part1 ⑲
- コレンテ Part1 ③
- コントルダンス Part1 ⑨

●サ行

- サラバンド Part2 ①
- サンバ Part2 ⑪
- ジーク Part1 ⑥
- シチリアーノ Part1 ⑧
- ジャイブ Part2 ⑮
- シャコンヌ Part2 ②
- ジルバ Part2 ⑭
- スラブ舞曲 Part1 ⑰
- スロー・フォックストロット Part2 ⑧
- セグディーリア Part1 ㉗

●タ行

- タランテラ Part1 ㉔
- タンゴ Part2 ④
- チャチャチャ Part2 ⑩
- チャールストン Part2 ⑥
- チャールダーシュ Part1 ㉑
- トルコ行進曲 Part1 ⑯

●ハ行

- パヴァーヌ Part1 ㉑
- パスピエ Part1 ㉒
- パン・ドブレ Part2 ⑬
- ハバネラ Part2 ③
- ハンガリー舞曲 Part1 ⑱
- ファンダンゴ Part1 ㉔
- フォリア Part1 ㉖
- フラメンコ Part1 ㉓
- ブルース Part2 ⑦
- ブーレ Part1 ⑤
- ポルカ Part1 ⑮
- ポレロ Part1 ㉕
- ポロネーズ Part1 ⑪

●マ行

- マズルカ Part1 ⑫
- マンボ Part2 ⑯
- ミュゼット Part1 ㉑
- メヌエット Part1 ⑦

●ラ行

- ラグタイム Part2 ⑤
- リゴードン Part1 ㉓
- ルンバ Part2 ⑫
- レントラー Part1 ㉒

●ワ行

- ワルツ Part1 ⑬

「この舞曲のテンポは、どのぐらいかしら?」

「ルンバとマンボの違いは・・・」

等々、ふと疑問に思ったり、記憶が曖昧で不安になったりしたとき、さっと調べられる「舞曲」ガイド。

Part1「ヨーロッパ編」(2008年11月号)同様、

巻頭カラーページの「中南米の踊り」の写真とあわせてご活用ください。

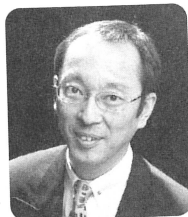


●サラバンド

サラバンド 1716年
ヨハン・ゲオルク・ブシュナー、グレゴリオ・ランブランツィ著
『新しい奇妙な場舞踏学校』
第1部
ニュルンベルク 1716年
『人間と音楽の歴史 17,18世紀の舞踏』
(ヴァルター・ザルメン著/音楽之友社)より

舞曲検定問題 (75ページ) 解答

- 初級 1. B)フランス 2. D) 2分の2拍子 3. C)オーストリア
- 中級 4. A)シャコンヌ D)サラバンド 5. B)キューバ 6. C)タンゴ
- 上級 7. アルマンド、クーラント (コレンテ)、サラバンド、ジーク
8. ワルツ、タンゴ、スロー・フォックストロット、クイックステップ、ヴィニーズ・ワルツ (ウィンナー・ワルツ)



岳本恭治

たけもと・きょうじ ●武蔵野音楽大学ピアノ科および国立音楽院ピアノ調律科卒業。英国トリニティカレッジグレード演奏家ディプロマを取得。NHK-FM放送をはじめ演奏活動と共に「ピアノ構造学」「ピアノ改良史」「ピアノ奏法史」の講演、レクチャー・コンサートを国内外で行う。2001年スロヴァキア・国際ファンメル協会より「ファンメル賞」を授与される。著書『ピアノを読む』(音楽之友社)、『江戸でピアノを』(未知谷)など多数。現在、日本J.N.ファンメル協会会長。スロヴァキア・国際ファンメル協会名誉会員。国立音楽院講師。2006・7・8年度東京/神戸芸術センター記念ピアノコンクール審査員。全日本ピアノ指導者協会 (PTNA) 正会員。公式ホームページhttp://jnhummel.com

2
シャコンヌ
chaconne
メキシコ ▶ スペイン

としています。
変奏の技法は、4小節または8小節の和声、例えば、「I・V・IV・V」のように定型として設定し、これを反復しながら変奏していきます。

バロック時代の重要な器楽形式で、変奏曲の一種。
大航海時代にメキシコからスペインにもたらされ、17、18世紀にイタリアやドイツで器楽形式として発展しました。3拍子の荘重なりズムを特徴

性終止です。
17世紀、ヨーロッパの宮廷舞曲に採用され、4分の3拍子か2分の3拍子で、和音主体の荘重な舞曲として踊られました。
また、J・S・バッハやヘンデルのバロック時代の組曲を構成する基本舞曲のひとつで、クーラント、またはコレンテの後に置かれます。
なお、3声部の軽やかなサラバンドもあり、イタリアには速いテンポのものもあります。

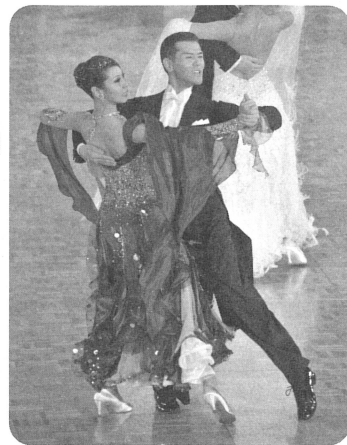
1
サラバンド
sarabande
メキシコ ▶ スペイン

16世紀中ごろにはパナマに、16世紀末にはメキシコに、この舞曲に関する記録が残されています。その後、スペインに輸入されました。
一般に第2拍に軽いアクセント、あるいは長い音符が置かれ、終止は女性終止です。

ボールルームダンス

- A. ワルツ (Part1 ⑬)
- B. タンゴ (Part2 ④)
- C. スロー・フォックストロット (Part2 ⑧)
- D. クイックステップ (Part2 ⑨)
- E. ヴィーニズ・ワルツ (Part1 ⑭) ウィンナー・ワルツ 参照

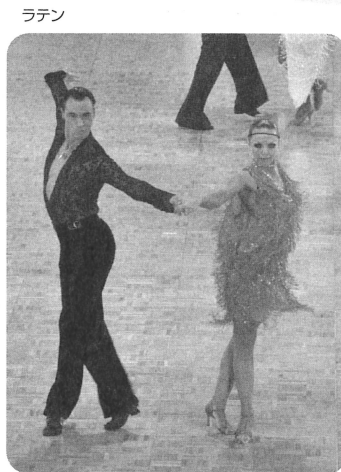
スタンダード
(モダン)



スタンダード

ラテン

- F. チャチャチャ (Part2 ⑩)
- G. サンバ (Part2 ⑪)
- H. ルンバ (Part2 ⑫)
- I. パソ・ドブレ (Part2 ⑬)
- J. ジャイブ (Part2 ⑮)



ラテン

写真提供: (財)日本ボールルームダンス連盟
2008年「日本インターナショナルダンス選手権大会」の様式。「日本インター」は、毎年6月に日本武道館で開催される国内最大級の競技会

男性と女性が組み合せて踊るもの

上記のA～Jは、ボールルームダンス(日本では社交ダンス or ソシアルダンス)、つまり、競技で踊られるダンスで、A～Eのスタンダード(モダン)と、F～Jのラテンの2つに分かれています。
スタンダード種目は、主にイギリスで80年ほど前に体系化されました。ステップ等が決まり、よりスピードアップして、現在の洗練された形となったのです。日本では特にワルツがよく知られていますが、輸入されたのは明治の鹿鳴館時代です。
ラテン種目は、南米圏のサンバ等の踊りを取り入れ、約40年前から体系化されました。
競技で踊られるのはスタンダード、ラテン合わせて上記の10種目ですが、ダンスパーティー等では、ブルース、ワルツ、タンゴ、ジルバ、マンボ、ジャイブ、チャチャチャ、ルンバ等が踊られます。

男性と女性が離れて踊るもの

スクエア・ルンバ/ジルバ
マンボ/キューバン・ルンバ
チャチャチャ/パソ・ドブレ
ジャイブ/サンバ

ダンスの競技会では種目別に踊りの腕を競います。スタンダードでは、男性はテールコート(燕尾服)に、ホワイタイ、女性は、かつては裾にオーストリッチ(ダチョウの羽)を縫いつけたロングドレスが一般的でしたが、最近ではスパンコールやラインストーンなどで飾ったエレガントなロングドレスを着用します。ラテンは基本的に自由ですが、フィギュアスケートのペアのような雰囲気のコスチュームを着用します。

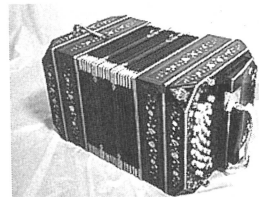
※ボールルームダンスに登場するダンス名は、いわゆる舞曲の曲名や形式ではなく、あくまでも踊りの形態を表しています。踊りに使われる曲は、それぞれのダンスにふさわしい拍子、テンポ、様式に編曲して演奏されます。
最近のピアノ・レックスンで弾かれる曲の中に、ここでご紹介したボールルームダンスのリズムが一部使われることがあるので、今回の特集では、これらと一緒に取り上げることになりました。



タンゴ
tango



●バンドネオン
バンドネオン奏者 田邊義博氏 所有
<http://www002.upp.so-net.ne.jp/y-tanabe/>



●タンゴ
タンゴ・クラブでのタンゴの夕べ 1913年
ハンス・フリッチェ
ライプツィヒ
カルル・リュウレス・ムジークフェルラク・ヴェ
「人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏」
(ヴァルター・ザルメン著・音楽之友社)より

3
ハバネラ
habanera
(正しくは「アバネーラ」)
キューバ

19世紀に広く流行し、ビゼーの《カルメン》や、《ラ・バロマ》《オ・ソレ・ミオ》の伴奏にも使われています。
このハバネラがアルゼンチンに伝わり、タンゴの基になったという説もあります。

19世紀前半にキューバの首都、ラ・アバーナ(ハバナ)で作られた歌謡曲、および舞曲です。ハバネラは、「ハバナの踊り」という意味になります。
4分の2拍子で、1拍目の表が長く、裏が短いリズムが特徴です。



4
タンゴ
tango
アルゼンチン

19世紀後半、アルゼンチンの首都、ブエノスアイレス近郊に位置するボカ地区に住むスペインやイタリアからの移民によって始められた、一種の民族音楽。アフリカや中南米のリズムに、ワルツやポルカ等の複数の音楽が混ざり合っています。20世紀に一般社会に普及、発展し、社交ダンスの種目にも取り入れられるようになりました。
「タンゴ」という言葉の由来には、数多くの説がありますが、アフリカ黒人が打つ太鼓のリズムの擬声語との説がもっとも一般的です。また、ヨーロッパの楽団による演奏スタイルのものを、コンチネンタル・タンゴ(社交ダンスで踊られるタンゴ)と言い、もともとこのアルゼンチン・タンゴと区別します。

4分の2拍子ないし8分の4拍子で、近年では4分の4拍子でも書かれるようになりまし。テンポは「J=60〜66」ぐらい。また、ハバネラのリズムも用いられます。全般的に鋭いスタッカートが多用され、この強靭なアーティキュレーションの上に、ロマンティックで、すすり泣くようなメランコリックなメロディーが付けられます。

演奏は、打楽器が加わらない弦楽器のグループとピアノによって行われます。アルゼンチン・タンゴでは、バンドネオン(アコーディオンに形が似ているが、鍵盤がボタン型)、コンチネンタル・タンゴでは、アコーディオンが用いられます。

※各舞曲の形式およびリズム・パターンは、時代、国、作曲者、各作品において、さまざまに変化し、曲によっては大幅に変更されます。ここに示したものは、ひとつの例として参考にしてください。

5 ラグタイム
ragtime
アメリカ合衆国

「ラグ」はジャズの原型で、アメリカ南部の酒場やダンスホールで、1870年代から流行した黒人ピアノの演奏スタイルです。左手の伴奏は、普通2拍子の和音で、右手はオフ・ビートの鋭いシンコペーションを持つたメロディーを演奏します。1900年ごろから、黒人や白人のバンド演奏やマーチング・バンドにも採用されました。

曲には、ヨーロッパのマーチ、ポルカ、カドリューの形式が使われます。

メロディーとハーモニーは西洋音楽的で、リズムは黒人的なものとなっていて、即興で弾かずに、楽譜通り弾くところが、ジャズとは異なっています。

*オフ・ビート…ポピュラー音楽特有の弱拍にアクセントを付けたリズムのこと。

チャールストン
Charleston



6 チャールストン
Charleston
アメリカ合衆国

ジャズ・ダンスの一種。J・P・ジョンソンとC・マックによって作曲された歌曲に由来しています。黒人たちによるレビュー(音楽やコント、踊り等で構成された時事風刺の効いた華やかで洒落たエンターテインメントショー)のダンスナンバーとして用いられた《サウスカロライナのチャールストン》が大ヒットしたため、このダンスステップをチャールストンと呼ぶようになりました。

このダンスは、ヨーロッパでも曲が発表された1923年から1930年代初頭まで人気が続き、1920年代を称して「チャールストン・エイジ」と表現されることもあるほど大流行しました。1960年ごろにも、一時的なバイバルブームがありました。

2分の2拍子の速いフォックストロットの一種で、強いシンコペーションを特徴としています。踊りは、両膝を付けて、両足を交互に斜め後ろに跳ね上げます。

ブルース
blues



7 ブルース(ブルース)
blues
アメリカ合衆国

パーティーなどでもっとも多く踊られているムードのあるダンスのひとつです。この場合のブルースというのは、あくまでも社交ダンスにおけるブルースであって、音楽のブルースとはまったく無関係です。

*音楽としてのブルースについて

正しくは、ブルースと発音します。19世紀後半から20世紀初頭に、アメリカ南部の田舎に住む黒人たちの中で生まれた民族色の強いポピュラー音楽です。アメリカ社会で生きる黒人たちが味わう不安や苦悩による憂鬱な気持ちを、切々と訴えます。ブルースは、アフリカ系アメリカ音楽の根源となっています。

ハラー(正式にはフィールド・ハラー。アメリカ南部の大農場で、作男が農作業中に仲間や家族に呼びかける叫び声を長く引くように発音します)や労働歌によるアフリカ起源の歌唱法と、ヨーロッパ起源のバラッド(ここでのバラッドは、19世紀後半から20世紀初頭にイギリスとアメリカで流行したポピュラーソングの一種。センチメンタルな歌詞を持つ歌曲)の形式が組み合わされています。

また、歌詞の最初2行が繰り返され、主和音(I)、下屬和音(IV)、属和音(V)を用いた進行により12小節が構成されます。ブルーノート(ほぼ半音近くフラットさせた第3音と第7音のこと)をとまとう音階や、シンコペーションが特徴となっています。

8 スロー・フォックストロット
slow foxtrot
アメリカ合衆国

19世紀末、ジャズの原型であるラグタイムが生まれ、これに合わせて登場したダンスのひとつがフォックストロットでした。その後、1912年にアメリカからパリに渡ったカッスル夫妻がラグタイムに合わせて踊った

カッスルウォーク(動物の動きを真似た気品のあるダンス)や、アメリカ人ダンサー、ハリー・フォックスの影響を受けながら発展しました。フォックストロットが生まれたころ、パリでは動物の動きを真似たアメリカ発のダンスが流行していたため、フォックストロット(狐の小走りの意)も狐のダンスだと考えられています。一方、ハリー・フォックスのフォックスから命名されたという説も有力です。

1920年代、フォックストロットがアメリカで流行し始め、イギリスにも伝わったころ、このダンスには、速いテンポのチャールストンの曲が使われていましたが、とても踊りにくかったそうです。そこで、1924年にテンポの速いフォックストロットをクイックステップ、これまでのフォックストロットをスロークエストロットと名付け、2つに分けるようになったのです。どちらも4拍子ですが、スロークエストロットは「1=120、128」ぐらいで、大きな上下運動や強弱の変化が少なく、川の流れるように柔らかくスムーズに踊られます。

9 クイックステップ
quickstep
アメリカ合衆国・イギリス

兄弟分のダンスであるスロー・フォックストロットと異なり、躍動感があり、4分の4拍子のアップテンポ(1=192、208ぐらい)で左右の足を跳ね上げつつ踊る、チャールストンの動きを取り入れたスピード感溢れるダンスです。

ベニー・グッドマン楽団の《シング・シング・シング》、グレンミラー楽団の《イン・ザ・ムード》などが代表的な曲になります。

Glenn Miller Orchestra



10 チャチャチャ
cha-cha-cha
キューバ

ルンバからマンボ、マンボからチャチャチャへと発展しました。1951年、キューバの作曲家兼ヴァイオリニストのエンリケ・ホルンは、チャチャのリズムをキューバのダンスフロアに紹介し、「オーケストラ・アメリカ」と演奏したのが初演と言われています。

ホルンは、ダンサーが床を叩くステップの音から、この新しいリズムを思い付いたと言われていますが、そのステップの音をキューバの擬音語的表現で「チャ・チャ・チャ」と言ったのが、この名の語源です。なお、すでに1948年にアントニック・アラカノという人の指揮でオーケストラが「チャチャ」という音楽を広め始めていたという説もあります。

リズムミカルな動きが絶妙のダンスで、独特なヒップ・ムーブメント(腰の動き)を伴うところは、ルンバと似ていますが、少しコケティッシュで陽気なところが魅力的です。音楽はマンボから進化したもので、4分の4拍子、「1=120、136」ぐらいが標準の速さです。

Benny Goodman



11
サンバ
samba
ブラジル

ブラジル北東部の港町で、アフリカ系黒人奴隷たちの間で生まれた踊りが起源です。最初は打楽器と掛け声だけの音楽で、その後、バトゥカーダ（打楽器のみの構成によるサンバ）等の音楽をもとに、ショロ（管弦打楽器等によるブラジルのジャズ）や、ルンドゥー（アフリカのスワヒリ語などのバントゥー語群を話すバントゥー系の人種が持ち込んだ舞曲）等の要素が取り込まれ、さらにアフリカの宗教的民族舞曲と、ポルカやマズルカといったヨーロッパの民族舞曲と楽器とが混ざり合い、サンバの原型が生まれました。

有名な「リオのカニバル」に代表されるように、打楽器が中心となって曲に合わせて即興で、陽気に情熱的に踊られます。速さは「♩196、110」が標準です。ただし、社交ダンスのサンバは、カニバルのサンバとは全く異なります。「リオのカニバル」でお馴染みのサンバは、大勢の人たちが一斉に音楽に合わせて踊るので、上流階級の人たちのダンスには向かず、カップルダンスにサンバの音楽を用いてヨーロッパ風に洗練されたサンバ（「マシシ」という）が作られました。

一般的な「サンバ」と社交ダンスでの「サンバ」の音楽は基本的に全く同じで、4分の2拍子（楽譜上は2分の2拍子で表記されることが多い）の第2拍目に強いアクセントがあるリズムカルな曲になります。「バウンス・アクション」と呼ばれる上下動の激しいスタイルで踊られます。なおアルゼンチンの歌舞曲のサンバは全く異なるものです。

14
ジルバ
jitterbug
（ジッターバグの日本語化）
アメリカ合衆国

ブルースが「静」なら、ジルバは「動」と言えるでしょう。1920年代にジャズ音楽が広まり、スウィング・ジャズの演奏をバックに女性を左右に振って踊る「リンディホップ」というステップが流行します。このリンディホップは年々進化して複雑になり、いろいろなダンスを生み出しました。その中のひとつである「ジッターバグ」のダンスが、日本でジルバと呼ばれるようになったのです（日本人の耳にはジッターバグがジルバと聞こえたようです）。

使われる曲はロックンロールやデイスコ調の音楽、あるいはアップテンポなスウィング・ジャズが多いようです。ジルバを起源とする踊りのひとつにジャイブがあります。ジルバとジャイブには、音楽的に明確な区分けはありません。しかし、社交ダンスの本場、イギリスに渡って生まれたジャイブは、社交ダンスの競技ダンスのラテン種目として取り入れられています。ジルバ（ジッターバグ）は競技ダンスには採用されませんでした。「♩160、208」くらい。

12
ルンバ
rumba
キューバ

ルンバは、キューバ本来的ルンバがアメリカやヨーロッパに伝わり、1930年代から世界的に流行し、1955年には競技ダンスの正式種目となりました。その当時、リズムの取り方に関して、1拍目から踊り始めるスクエア・ルンバ（後者のキューバン・ルンバより速め）派と、1拍目を待って2拍目から踊るキューバン・ルンバ派に分かれ、大論争が起きました。1962年、正式にキューバン・ルンバをルンバの基礎とすることが決まったのです。

ソフトで哀愁に満ちた音楽に、柔らかなヒップ・ムーブメント、そしてクラシック・バレエを思わせるような、しなやかな手の動きとポーズ等、女性らしさを表現する動きは、スクエア・ルンバにはない華やかなものとなっています。速い活気に満ちた4分の4拍子、または4分の2拍子で、テンポは「♩112、128」。代表曲にキューバのドン・アスピエス楽団の《南豆売》や《コーヒー・ルンバ》があります。

*スクエア・ルンバ：元来のルンバがアメリカやヨーロッパに渡って発展し、踊られるようになったのがスクエア・ルンバです。両足を鎖でつながれた黒人奴隷たちが、静かに足を動かしてリズムを取ることから始まったので、せいぜい左右に3歩ぐらいしか動かせません。そこから「1・2・3・4」の4拍で3歩という今日の基本リズムになったと言われています。スクエアとは「四角」という意味で、男性と女性が平行に向かい合って、4分の4拍子、または4分の2拍子で四角形を保ちながら踊られます。フランスでも流行したことからフレンチ・ルンバの別名もあります。

13
パソ・ドブレ
paso doble
スペイン▶中南米

南フランス、スペイン、ポルトガル等の南欧諸国を「ラテン」と呼びます。その南欧諸国のひとつであるスペインには、独自の文化として「闘牛」と「フラメンコ」があります。闘牛場での闘牛士の入場行進曲として会場の興奮を高めるために使われた音楽が、このパソ・ドブレで、踊りのポーズの中にはフラメンコのテクニクも取り入れられています。勇猛果敢に牛に立ち向かう闘牛士の姿を原型にして生まれたダンスです。

男性は闘牛士（マタドール）、女性は闘牛士の持つ赤いケープ、または牛を踊りで表現します。一般的に他のダンスは女性が主役で踊られるのに対して、パソ・ドブレは男性が主役になります。

音楽は、闘牛場でもよく演奏される勇ましいマーチで、4分の2拍子（8分の6拍子を2拍にとることもある）、「♩120、124」くらいになっています。ちなみに「ラテン・アメリカ」とは、ラテン諸国に統治された中南米の国々のことです。

※パソ・ドブレは、スペイン起源説が有力ですが、ここでは、ポール・ルムダンスのラテン種目の曲のひとつとして、アメリカ編（南米）に掲載しました。

15
ジャイブ
jive
アメリカ合衆国 ▶ イギリス

この踊りのルーツはジルバ（ジッターバグ）です。ジルバが1940年代後半にイギリスへ渡り、イギリスの民族ダンスをもととして、歩数やリズムが改良され、「ジャイブ」が生まれました。音楽はジルバと同じロック系、またはスウィング系で、第2拍と第4拍に強いアクセントのあるビートの効いた音楽が合います。ジルバに比べて動きはよりエネルギッシュです。「♩160、176」くらい。

bongoes maracas conga



16
マンボ
mambo
キューバ

1930年代後半、ルンバにジャズの要素を取り入れて作られたマンボは、1950年代に爆発的に流行しました。ペレス・プラド楽団の《マンボNo.5》にもあるように、「ア〜〜、ウッ」という掛け声が入ったり、コンガなどのパーカッションがリズムをリードしたりすることが多い、陽気な雰囲気のあるラテン曲です。8小節のテーマに4小節の間奏が付くと、マラカス、ボンゴエス、コンガ等の打楽器を使用することをルンバから受け継いでいます。

また、男性が先に踏んだステップを女性が1小節遅れで同じように踏むという約束ごとが、この踊りの最大の特徴になっています。女性同士でも踊れる手軽さもあって、「競技ダンス」の曲ではなく「パーティーダンス」として分類されています。キューバン・ルンバやチャチャの基本ステップと共通する部分も多くなっています。「♩128、160」くらい。

舞曲のリズム一覽

① サラバンド

A A' A''

② シャコンヌ

(4小節または8小節)

A A'

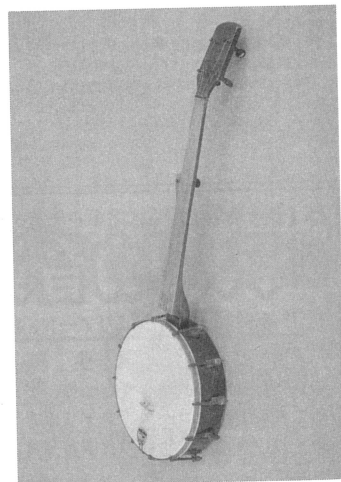
例) (和声) I-VI-IV-V I-VI-IV-V

③ ハバネラ

④ タンゴ

⑤ ラグタイム

(ベースのリズムの1例)



●バンジョー
アメリカ民謡やジャズなどで馴染みの楽器。4弦のものから9弦のものまであります。浜松市楽器博物館 所蔵

舞曲 発祥地MAP

.....舞曲の発祥地を調べるのに便利なマップ!.....

北アメリカ

- ⑤ ラグタイム
- ⑥ チャールストン
- ⑦ ブルース
- ⑧ スロー・フォックストロット
- ⑨ クイックステップ
- ⑭ ジルバ
- ⑮ ジャイブ

- ① サラバンド
- ② シャコンヌ

- ③ ハバネラ
- ⑩ チャチャチャ
- ⑫ ルンバ
- ⑬ マンボ

Copyright © 2007 TSUKUI International Inc. All Rights Reserved.

南アメリカ

※パナマは北アメリカです。

- ① サラバンド
- ⑪ サンバ
- ④ タンゴ

Copyright © 2007 TSUKUI International Inc. All Rights Reserved.

ルンバやマンボなどの演奏で
使われる楽器の一部

12 ルンバ



●コンガ



13 パソ・ドブレ



●ボンゴエス

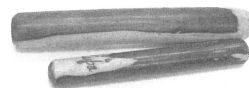


14 ジルバ

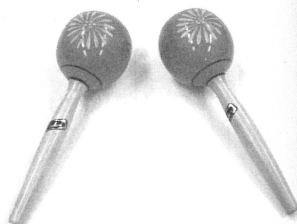


(基本リズムとして)

●クラヴェス



●マラカス

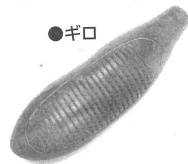


15 ジャイブ



(基本リズムとして)

●ギロ



16 マンボ



または



(基本リズムとして)

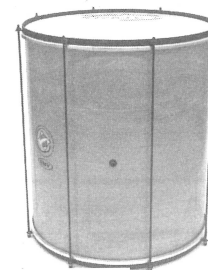
P72, 73ページの楽器写真提供:
コマキ楽器 JPC ☎03-3845-3043
<http://www.komakimusic.co.jp/>

サンバの演奏で
使われる楽器の一部

6 チャールストン



●スルド



7 ブルース



(1つの例として)

●タンボリン



●カイヤ



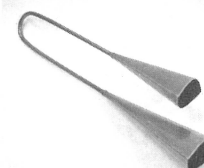
8 スロー・フォックストロット



●クイーカ



●アゴゴベル



10 チャチャチャ



11 サンバ



●サンバホイッスル



著名ピアニストも使っている **ピアノテックスと防音・耐地震ゴム台**

■ 堅型用もありませ

- 6帖で250万円位の防音費が数万円でOK!!
- 特許の助響板が音量音色で理想的処理。
- 当社のゴム台は音色もクリアにします。

グランドピアノ用
ピアノテックス ¥58,800 (税込) (C2,C3用)
ゴムマット(1台分) ¥8,820 (税込)・¥15,750 (税込)

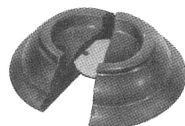
堅型ピアノ用
ピアノテックス ¥53,550 (税込)
(堅型、グランド型共取付費別途)

カタログ及び資料をお送りいたします。直販もOKです。

教育楽器販売株式会社

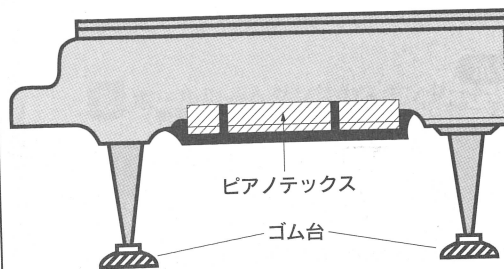
住所: 〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-27-22
電話: 03(3410)8009 FAX(ダイヤル): 0120(11)4269

ゴム台証明される
音色も良くなる



【黒・茶 2色】
地震・防音兼用型/防音専用型
¥16,275(税込)~¥10,395(税込)~
PP印金属板入りゴム台

<http://www.kmusik.net>



ピアノテックス

ゴム台

メリーランド州立大学ボルチモア・カウンティ UMBC

アメリカ音楽留学!

!! イーストマン、ジュリアード、1次ピーボディ合格!!

【学 生 | 募 | 集 |】

音楽及び英語の訓練を受けつつ、ディプロマの資格を習得できる大変魅力的なコース。アメリカ音大大学院への入学準備を目指す方、または1年間の留学希望者に最適。

- 連絡先/UMBC 大学音楽部教授 田野崎和子まで
- 電話・FAX/+1-410-747-5632(U.S.A.) ※日本時間10PM~正午
- 電子メール/tanosaki@umbc.edu
- 詳細は...<http://umbc.edu/music/>の専科コースをクリック

Genepis
ピアノ修理の **匠**

調律・全塗装・内部修理
全てが行える
ピアノの専門店です

株式 **総合ピアノサービス** 会社
〒791-8044 愛媛県松山市西垣生857の1
TEL(089)971-9275 FAX(089)971-9207

Email:piamatsu@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.genepis.jp/>

ピアノの歴史と音色を
守り続けています。

詳しくはホームページを
ご覧ください。

舞曲検定問題

問題作成：岳本恭治



1 メヌエットの起源は不明ですが、どこの国の民族舞踊から発展したものでしょうか?

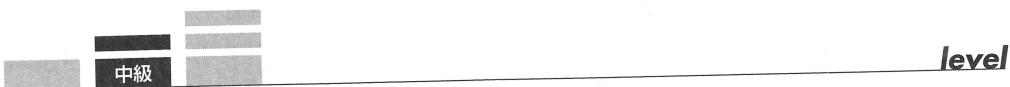
- A) ドイツ B) フランス C) イタリア D) ポーランド

2 ガヴォットは活気のある舞曲ですが、何分の何拍子で作曲されているのでしょうか?

- A) 4分の2拍子 B) 4分の3拍子 C) 4分の4拍子 D) 2分の2拍子

3 ワルツは、どこの国で発生した舞曲でしょうか?

- A) フランス B) ドイツ C) オーストリア D) イギリス



4 生まれはメキシコ、その後スペインで発展した舞曲はどれでしょうか? 2つ選びましょう。

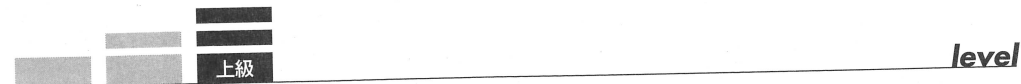
- A) シャコンヌ B) パン・ドブレ C) タンゴ D) サラバンド

5 ルンバは、どこの国で生まれた舞曲でしょうか?

- A) ブラジル B) キューバ C) メキシコ D) アルゼンチン

6 ギロック作曲の《アルゼンチン》には、「何のリズムにのって」という指示があるのでしょうか?

- A) サラバンド B) ジルバ C) タンゴ D) ハバネラ



7 バロック時代の組曲の基本舞曲を、4つ書きましょう。

()

8 ボールルームダンスのスタンダード(モダン)部門の競技で踊られる舞曲を、5つ書きましょう。

()

※正解は、62ページをご覧ください。

舞曲 ピアノ作品リスト



① サラバンド

バロック時代

- コレッリ: サラバンド ホ短調
- パッヘルベル: サラバンド
- ヘンデル: 組曲 二短調 より サラバンド
- ヘンデル: 組曲 ト短調 より サラバンド
- J.S.バッハ: フランス組曲、イギリス組曲、パルティータ より サラバンド

古典派

- W.F.バッハ(長男): サラバンド ホ短調

現代

- ギロック こどものためのアルバム: 《サラバンド》
- ギロック アクセント・オン 2 バロック・スタイル: 《堂々としたサラバンド》

② シャコンヌ

バロック時代

- ヘンデル: シャコンヌ ト長調
- ヘンデル: シャコンヌ ヘ長調
- ムファット: シャコンヌ ト長調

ロマン派(原曲はバロック時代)

- J.S.バッハ=ブラームス: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 より シャコンヌ(左手のための)

現代(原曲はバロック時代)

- J.S.バッハ=F.プゾーニ: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 より シャコンヌ

③ ハバネラ

- セバスティン・イラディエール(1809-1865・スペイン): 《ラ・パロマ》
- ジョプリン: 《ソラース》
- トンプソン現代ピアノ教本2: 『カルメン』から《ハバネラ》

④ タンゴ

- アルベニス: 組曲『スペイン』より《タンゴ》作品165-2
- G.オースティン: タンゴ・リフィック
- ローゼンブラット: タンゴ
- ピアソラ(山本京子編曲): リベル・タンゴ
- バステイン おとなのピアノ教本Book2: タンゴ
- はじめてのギロック: アルゼンチン
- やさしく弾けるラテンピアノアルバム1: ラ・クンパルシータ



⑤ ラグタイム

- ジョプリン: メープル・リーフ・ラグ
- ジョプリン: イージー・ウィナーズ
- ジョプリン: ジ・エンターテイナー
- みんなのグローバー・ピアノレッスン Vol.4: ラグタイム・ダンス
- バステイン おとなのピアノ教本Book1: エンターテイナー
- キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: ラ!ラ!ラグ
- キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: 無声映画のラグタイム
- キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: ジャズでラグして

⑥ チャールストン

- C.マック/J.ジョンソン: チャールストン(ピアノソロではありません)
- ガーシュウィン: ヘ調のピアノ協奏曲 第3楽章 第2主題

⑦ ブルース

- 音楽のブルースとして...
- ギロック はじめてのギロック: サマータイム・ブルース
 - ギロック アクセント・オン 1: ブルースのスタイルで
 - ギロック ピアノピース・コレクション2: ブルース・プレリュード
 - キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: 大都会ブルース
 - キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: ムーディー・ブルース
 - ガーシュウィン: ヘ調のピアノ協奏曲 第2楽章

⑧ スロー・フォックストロット

- ガーシュウィン: ヘ調のピアノ協奏曲 第1楽章 第2主題

⑩ チャチャチャ

- ピアノだいすき④: おもちゃのチャチャチャ

⑪ サンバ

- A.C.ジョビン: こどもピアノワールド1(原川健・春畑セロリ編曲)より ワン・ノート・サンバ
- A.C.ジョビン(西村由紀江編曲): ワン・ノート・サンバ
- ギロック叙情小曲集: リオのカーニバル
- ミヨー: スカラムーシュ(2台用)第3楽章 ブラジルの女

⑫ ルンバ

- 井上陽水/ピアノ・ソロ・アルバム(やさしく弾ける)より コーヒー・ルンバ

⑮ ジャイブ

- キャサリン・ロリン ピアノ・ジャズキャット: ジャンプでジャイブ

⑯ マンボ

- 物部一郎: 55のピアノ曲集(2): マンボ(連弾)